

すれ違いのため湯ノ岱駅ホームの両側に並んで停車した列車



# 江差線10駅 最後の夏

## 5 湯ノ岱



湯ノ岱駅に到着すると、ホームの反対側に列車が待っていた。木古内駅を一本早く出発し、江差駅から折り返してきた便だ。湯ノ岱駅はホームの両側に線路があり、全線単線の江差線木古内―江差間で唯一、列車のすれ違いができる駅だ。通常ダイヤならホーム上で毎日12回、列車が通行するたびに安全運行の「儀式」が行われる。湯ノ岱駅から終点江差までの区間(20・7km)は信号がなく、列車の位置を検知する設備もない。このため、単線上下の正面衝突を防ぐために「スタフ」と呼ばれる通行許可証が使われる。湯ノ岱駅では、駅員が江差駅から折

■メモ 上ノ国町湯ノ岱、1985年(昭和10年)12月10日、木古内―湯ノ岱間開通に伴って開業。木古内―江差間の途中駅で唯一の有人駅だ。ホームは2線あり、同区間で湯ノ岱駅だけがすれ違いが可能。89年に現在の駅舎に改築。木古内駅から21・4km。近くには源泉の湯が人気の湯ノ岱温泉がある。

# 安全を守る「儀式」



通行許可証のスタフを江差行き列車の運転士に渡す湯ノ岱駅員

返してきた運転士からスタフを受け取り、江差方向に運行本数が少なく行き止まりの区間のみで可能なやうだ。

スタフはドーナツ状の鉄の玉を皮で包み、長さ1mほどの鉄製ワイヤでつるしたもの。スベアはない。運転士は、このスタフが無心の注意を払っている。単でも列車を動かすことはできるが、江差行き列車は湯ノ岱駅から先に出発してはならない決まりだ。止まで1年を切ったこの道内での方式を採用し夏、湯ノ岱駅では毎日列車が到着するたびに大勢の鉄いす」と表情をほころば線の石狩月形―新十津川道ファンがホームに群がせていた。